

建築文化賞

景観に配慮した建築物

建築主：千葉市

設計：株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ

施工：新日本・池田工建建設共同企業体

所在地：千葉市美浜区打瀬2丁目

全体の空間を一体化した「オープンスクール」

千葉市立美浜打瀬小学校



西側立面夜景

本施設は、幕張新都心住宅地区内に完成した三校目のオープンスクール形式の小学校で、これまでと同様に街区のデザインコードに従った沿道型で、校門やフェンスのない街と一体化した地域交流型スクールである。

外観はコンクリート打ち放しとブルーのFRPグレーチングスクリーンで構成された透明感のあるデザインで、周辺に優しい表情を映し出している。

建物全体は、2層で120m×80mのワンルーム空間構成とし、6学年の学年ゾーンと特別教室、体育館、管理諸室が流動的に配置され、1階の低学年ゾーンは外部空間と一体化して接地性を高め、屋上プールに接続する大階段は一般住民にも開放される多目的交流空間となる。

4教室を1単位とする学年ゾーンはワークスペースを中心に多様な学習空間が演出され、隣接する階段状の多目的室は学年全員が集まれる学年ハウスを形成している。

オープンスクールの「音」の

問題の解決に当たって、リブ状の吸音装置とガラスの遮音壁を設けて教室間の音の伝達を防ぎ、温熱環境面では、ファンコイルユニットから床下に送られた温風を各室の床面から吹き出して均一な暖房効果を確保しており、建物全体に光と風がみなぎる開放的で快適な生活空間を創出している。

講義型から活動型に移行する教育環境への対応、地域住民との連帯感や将来の施設転用に配慮したこれからの学校建築のあり方を追求し、多様な空間の中で育まれるアクティビティの重要性に拘り続ける設計者の思い入れに深い感銘を覚えた。(明智克夫)



5年生学年ゾーン屋根



低学年学年ゾーン

(撮影/小林浩志)